

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(103)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(103)—

1. 始めに

前報(102)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は器楽協奏曲です。

PHILIPS SFL-7783

モーツアルト フルート協奏曲 1 番ト長調

フルート協奏曲 2 番ニ長調

フルートとオーケストラのためのアンダンテハ長調

フーベルト・バルワーザー (フルート)

コーリン・ディヴィス指揮ロンドン交響楽団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第 4 時定数 High で聴いていきました。

フルート協奏曲の 2 曲は、お馴染みの曲で、明るく生き生きとした表情の曲です。

フルートとオーケストラのためのアンダンテは、初めて聴くものですが、ゆったりとしたオペラのアリアのような曲です。

バルワーザーのフルートは切れの良い演奏で、曲の表情を的確に再現しており、ディヴィス指揮ロンドン交響楽団も爽やかな演奏ぶりです。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の曲の特徴がよく把握できます。

以上